

特定外来生物

同定マニュアル

■ 軟体動物等

カワヒバリガイ属

(*Limnoperna* 属)

カワホトトギスガイ (ゼブラガイ)・クワガツカイ

(*Dreissena polymorpha*) (*Dreissena bugensis*)

ヤマヒタチオビ

(*Euglandina rosea*)

ニューギニアヤリガタリクウズムシ

(*Platydemus manokwari*)

カワヒバリガイ属

分類：二枚貝綱イガイ目イガイ科

学名： *Limnoperna fortunei* (Dunker, 1856)

英名： Golden mussel

和名： カワヒバリガイ

学名： *Limnoperna siamensis*

学名： *Limnoperna depressa*

学名： *Limnoperna spota*

原産地と分布： 東アジアから東南アジアまで広く分布する。カワヒバリガイは移入により、日本国内では木曾三川、琵琶湖、淀川に、国外では南米に生息している。

未判定外来生物： なし。

種類名証明書添付生物： なし。

カワヒバリガイ

Limnoperna fortunei

(Dunker, 1856)

外部形態： 成体では黄緑色がかった黒褐色。殻長10mm以下の稚貝では、後方背側の半分は濃い紫色で、①前方腹側の半分は黄土色を呈する。成体では②殻頂と殻の前端は一致する。殻は薄い。最大殻長40mm前後。③糸糸と呼ばれる糸状物質を殻底部から分泌し、基質に固着する。



① 前方腹側の半分は黄土色を呈する。成体では②殻頂と殻の前端は一致する。殻は薄い。最大殻長40mm前後。③糸糸と呼ばれる糸状物質を殻底部から分泌し、基質に固着する。

カワヒバリガイ (イガイ科)
Limnoperna fortunei

中国などアジア大陸の原産。各地で利水活動に影響を与えるなど、悪評が高い。日本では、琵琶湖・淀川水系と木曾川水系に侵入している。

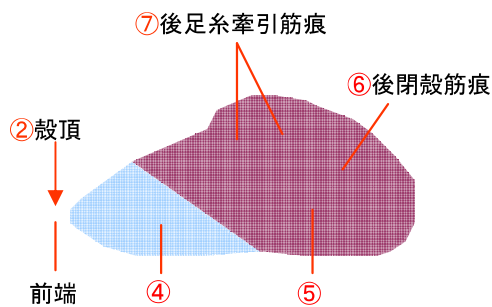


殻の内側の形態： 殻の内側は真珠光沢があり、④前方腹側は青白色で⑤後方背側および後縁は紫色。

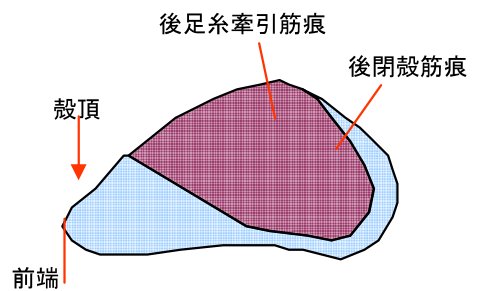
殻の内面の⑥後閉殻筋痕と⑦後方の後足糸牽引筋痕とは分離する。また、後足糸牽引筋痕は太い。

(筋痕：筋肉がついていた痕)

〔カワヒバリガイ〕



〔コウロエンカワヒバリガイ〕



カワヒバリガイとコウロエンカワヒバリガイの筋痕
(原図：Kimura et. al. (VENUS, 1999))

特記事項： 中国産の輸入シジミに付着している可能性があるため、外国産シジミの放流には特に注意が必要である。また、日本にすでに定着している台湾シジミにも付着している可能性があり、在来種のマシジミと間違えてカワヒバリガイが付着した台湾シジミを他の地域に放流してしまうこともありうるので、野外でシジミ類を見つけても不用意に移動させないほうがよい。さらに、カワヒバリガイはカワニナなどのほかの貝類にも付着するので、貝類を含め生物の移動・放流には十分注意する必要がある。カワヒバリガイは3～6日ほど日に当てて乾燥させると死亡する。

日本国内では、淡水域に生息する固着性二枚貝類はカワヒバリガイのみである。形態の非常によく似たコウロエンカワヒバリガイは主に海域に生息する種である。

カワホトギスガイ(ゼブラガイ)・クワツガガイ

分類: 二枚貝綱マルスダレガイ目カワホトギスガイ科

学名: *Dreissena polymorpha* (Pallas, 1771)
英名: zebra mussel
和名: カワホトギスガイ(ゼブラガイ)

未判定外来生物: なし。
種類名証明書添付生物: なし。

学名: *Dreissena bugensis* (Andrusov, 1897)
英名: quagga mussel
和名: クワツガガイ
原産地と分布: カスピ海、黒海原産。移入により北米、カナダ、ヨーロッパ諸国にも分布する。

形態的特徴: カワホトギスガイ(ゼブラガイ)

Dreissena polymorpha (Pallas, 1771)

殻表面は黒～茶色と、白～黄(金)色の縞模様が顕著。色彩変異に富む。殻頂部はとがり、三角形から垂三角形型で、腹面および背面が角張る。最大殻長40mm前後。足糸と呼ばれる糸状物質を殻底部から分泌し、基質に固着する。



中井

イシガイ類に付着するカワホトギスガイ



JWRC



JWRC

標本: 千葉県立中央博物館蔵

形態的特徴: クワツガガイ

Dreissena bugensis (Andrusov, 1897)

殻表面はやや不明瞭な黒と白の縞模様。色彩変異に富む。カワホトギスガイに比べ、全体的に黒っぽい。殻頂部はとがり、三角形から垂三角形型で、変異がある。最大殻長40mm前後。足糸と呼ばれる糸状物質を殻底部から分泌し、基質に固着する。



JWRC

標本: 千葉県立中央博物館蔵

特記事項: 日本国内には現在、どちらも生息していない。国内には海域に殻の模様がよく似たホトギスガイが生息しているが、これは在来種である。

ヤマヒタチオビ(オカヒタチオビ)

分類: 腹足綱柄眼(マイマイ)目ヤマヒタチオビ科

学名: *Euglandina rosea* (Ferussac, 1821)

英名: Cannibal snail, Rosy wolf snail

和名: ヤマヒタチオビ

別名・流通名:

原産地と分布: 中南米、北米フロリダ原産。移入によりハワイ、グアムなどの太平洋諸国および、日本国内では小笠原諸島に分布する。

未判定外来生物: ヤマヒタチオビ科全種(ヤマヒタチオビを除く) オカチヨウジガイ(オカチキレガイ)科全種(マルオカチヨウジガイ、オカチヨウジガイ、シリフトオカチヨウジガイ、ホソオカチヨウジガイ、サツマオカチヨウジガイ、ユウトウオカチヨウジガイ、オオオカチヨウジガイ、トクサオカチヨウジガイ、オオクビキレガイ、オカチキレガイを除く)、Oleacinidae科全種、ネジレガイ(タワラガイ)科全種: タワラガイ、コムツブタワラガイ、ミヤコダワラガイ、ヨナクニダワラガイ、ソマケダワラガイを除く、ヌリツヤマイマイ科全種、Haplotrematidae科全種

種類名証明書添付生物:

ヤマヒタチオビ科、オカチヨウジガイ(オカチキレガイ)科、Oleacinidae科、ネジレガイ(タワラガイ)科、ヌリツヤマイマイ科、Haplotrematidae科全種

形態的特徴: 殻色は淡褐色で、殻は薄く軟体部が透けて見える。軟体部は黒灰色。殻高約6cm、殻幅約2cmまで。細長型のカタツムリ。



標本: 千葉県立中央博物館蔵

特記事項: 日本国内では小笠原諸島に生息している。荷物にまぎれて本州などの他の地域に持ち込むことのないよう、注意する必要がある。陸生巻貝類はほとんどが、植物防疫法と特定外来生物で海外から許可なく持ち込むことはできない。小笠原諸島や沖縄列島に生息しているアフリカマイマイや本州に生息しているスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)は特定外来生物法の規制対象外だが、他の地域へ移動させないように注意する必要がある。

ニューギニアヤリガタリクウズムシ

分類: 渦虫綱三岐腸目ヤリガタウズムシ科

学名: *Platydemus manokwari* (de Beauchamp, 1962)

英名: flatworm

和名: ニューギニアヤリガタリクウズムシ

別名・流通名:

原産地と分布: ニューギニア原産。移入により、日本国内では琉球列島、小笠原諸島に、国外ではオーストラリアおよびグアム、ハワイ、ミクロネシア、フィリピンなどの太平洋諸国に生息している。

未判定外来生物: なし。

種類名証明書添付生物: なし。

形態的特徴: 成体で、体長40-65mm、体幅4-7mm、厚さ2mm程度。背面は黒から黒褐色で、縦に細く白い線がある。腹面は淡灰色。頭部先端は尾部先端よりもとがる。



特記事項: 生息域である沖縄・小笠原から、園芸植物等の土壌や荷物に付着して本州に持ち込まれる可能性がある。小さい生き物なので、移動するときは靴の裏側を洗うなどの細心の注意が必要である。荷物にまぎれているのを見つけたら、野外に捨てずに処分するのが望ましい。

形態はナメクジやヒルにも似ているが、ナメクジには触角があり、ヒルには裏側に吸盤があることで区別できる。